

出題分析			
試験時間	60分	配点	50点
		大問数	3題
分量 (昨年比較)	[減少]	同程度	増加]
		難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>今年度から試験時間が60分に短縮されたが、〔Ⅰ〕英文読解問題、〔Ⅱ〕短文空所補充問題、〔Ⅲ〕誤箇所指摘問題という出題形式は例年通りであった。昨年度と比較し、〔Ⅰ〕は英文数が2つ減少し、設問が5問減少した。また、〔Ⅱ〕は設問数が5問減少したが、〔Ⅲ〕は例年通りの設問数だった。昨年度の〔Ⅰ〕は比較的取り組みやすい問題が多かったが、今年度は判断に悩む設問が複数見られた。また例年同様、〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕にはあまり馴染みのない熟語を問うものが含まれていた。解答の判断に迷う設問が多かった点に加え、試験時間に対する厳しさは昨年度よりも増していることも考えると、やや難化したと言えるだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	英文読解問題 「ブラックホールの音」「花粉濃度の増加」「栗の特徴」など	200語～400語程度の英文6つを題材にした読解問題で、設問は内容一致問題や空所補充問題、表題選択問題など計20問であった。いずれの英文も読みやすいが、設問には紛らわしい選択肢を含むものが散見された。特に表題選択問題に悩んだ受験生は多かったのではないだろうか。今年度は、選択肢の判断に迷う設問が昨年度よりも多かったため、やや難しかったと言えるだろう。	やや難
II	短文空所補充問題	短文の空所に適切な前置詞を補う問題で、例年15問出題されていたが、今年度は10問であった。難度の高い熟語の知識が問われる傾向があり、今年度も一部に難しい熟語を問う問題が含まれていた。	標準
III	誤箇所指摘問題	短文中の4つの下線部のうち誤りがある箇所を選択する問題で、例年通り10問出題された。基本的な文法・語法の知識で解ける設問がある一方、判断に迷う設問も若干見られた。しかしながら、昨年度と同様に基本的な知識を問う問題も含まれていたため、しっかりと得点したい大問であった。	標準

合格のための学習法

今年度から試験時間が 60 分に短縮されたが、英文読解問題、短文空所補充問題、誤箇所指摘問題という出題形式は例年通りであった。英文読解問題は個々の英文は短めだが、6 種類の文章を読まなければならない、また紛らわしい選択肢が少なくないため、丁寧に取り組んでいると時間不足に陥る恐れがある。設問内容を先に確認したうえで本文を読むと、解答時間の短縮につながるであろう。短文空所補充問題は、日頃の長文読解の学習を通して前置詞の理解を深めるとともに、同種の問題を数多くこなすとよい。誤箇所指摘問題は、文法・語法の基礎を固めたうえで、過去問演習を通じて出題パターンに慣れるのが得策であろう。